

国語 第4学年 言葉から連想を広げて 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。以下の指導案を、私の学級に合わせて直してください。最初に学級の人数と学習の組み方、関連する既習事項、読む・書く・話す際の困難や必要な配慮、使える授業時間と研究授業の位置、ICTと紙の道具について、一項目ずつ質問し、答えを待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、一つの語から思い浮かぶことを広げ、その中から理由を添えて書く材料を選ぶ。連想を並べるだけで文章を終えない。このねらいを保ち、目標・評価規準・計画・本時の活動の対応を確かめて全文を書き直してください。本文や台詞、挿絵、教科書固有の問題文は転載しないでください。時数や人数、時間配分は私の回答か出典があるものだけを使ってください。児童の反応を実測した事実として書かず、予想として示してください。三重の指導案の見出しの順を保ち、教師向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更した所と、その根拠となった私の回答を最後に示してください。直す対象の学習指導案は、この後に続けて書きます。

———ここから直す対象の学習指導案———

第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「言葉から連想を広げて」 教材名「言葉から連想を広げて」

2 単元の目標

考えとその理由や事例との関係を理解することができる。自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表すことができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①考えとその理由や事例との関係を理解している。（〔知識及び技能〕(2)ア）

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表している。（B(1)ウ）

〔主体的に学習に取り組む態度〕①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

一つの語から思い浮かぶことを広げ、その中から理由を添えて書く材料を選ぶ。連想を並べるだけで文章を終えない。学習指導要領のB(1)ウを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(2)アを、言語活動の中で確かめる。

（2）児童について（学級の実態を書く）

（3）指導について

独自例として「雨」から音・場所・気持ちを思い浮かべ、選んだ語と体験の関係を短い文で説明する。経験が出ない児童は授業内で聞きした場面から選ぶ。おおむね満足できる状況は、自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○言葉から思い浮かぶことを出す。経験と関係する語を選ぶ。 評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○理由や事例を付けて文にする。読み合って伝わり方を確かめる。 評価：思①（発言・学習記録）

6 本時の指導（2／2）

（1）本時の目標

自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表すことができる。

（２）学習過程

【導入】

学習活動：本時に使う教材・前時までのノートを確認、自分の最初の考えを短く書く。

○「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」

【めあて】一つの語から思い浮かぶことを広げ、その中から理由を添えて書く材料を選ぶ。

予想される児童の反応：・同じ言葉でも友達は違う経験を思い出した。

指導上の留意点：本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。

【展開】

学習活動：○「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」

理由や事例を付けて文にする。読み合って伝わり方を確かめる。

連想した語の図と、選んだ材料・理由を含む短い文章。

自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。

予想される児童の反応：・同じ言葉でも友達は違う経験を思い出した。

・色だけでなく気持ちも思い浮かんだ。

・理由を入れると自分の経験が伝わる。

指導上の留意点：独自例として「雨」から音・場所・気持ちを思い浮かべ、選んだ語と体験の関係を短い文で説明する。経験が出ない児童は授業内で見聞きした場面から選ぶ。

想定するつまずき：連想語だけを列挙する、友達の連想を間違いと判断する。

児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。

評価：思① 自分の考えとその理由や事例との関係が分かるよう書き表している。（発言と学習記録）

【まとめ】

学習活動：【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。

学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。

予想される児童の反応：・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。

・理由を入れると自分の経験が伝わる。

指導上の留意点：まとめの文を先に与えて写させず、児童が本時に扱った具体的な言葉を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。次の学習では、その記録を使って自分の表し方を確かめる。

評価：態①（学習前後の記録と、見直した理由）

（３）板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その言葉から、その出来事を思い浮かべたのはなぜですか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

